

フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会
持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会（第 24 期・第 5 回）議事要旨

日時：平成 31 年 4 月 16 日（火）14：30～16：30

会場：日本学術会議 5－A（1）会議室（5 階）

出席：花木啓祐、日置光久、氷見山幸夫、山形俊男、小金澤孝昭、小松輝久、鈴木康弘

配布資料：

資料 1：第 22 期提言「持続可能な未来のための教育と人材育成の推進について」要旨

資料 2：アジアにおける陸域システムと土地利用の持続可能性向上に向けた総合的研究
ver.2

資料 3：アジアにおける陸域システムと土地利用の持続可能性向上に向けた総合的研究【補足資料】

資料 4：2019 年度機能別委員会、課題別委員会の予算配分等について

資料 5：学術フォーラム確認事項

資料 6：公開ワークショップ「Future Earth と学校教育：海の学びと人材育成」ポスター

参考：FE 教育人材育成分科会 所属・メールアドレス、ESD・SDGs 小委員会 所属・メールアドレス、海洋教育小委員会委員 所属・メールアドレス

議題：

1) 分科会に関する国際的・国内的動向について

・ISC で体制作りが進む。4 委員会のひとつとして教育の柱は立たなかったが、関心は高まっている。一方で、FE における「教育」の取り組みが弱く問題がある。

・UNESCO メンバー団体からの推薦に基づき日本は ESD の賞を出している。ISC は UNESCO メンバーを標榜しているが、その賞についての情報が届いていないのは問題である。

・ISC はヨーロッパ主導。アジアを含む 3 地域にある Regional Office をなくす方向なのは問題である。

・Ocean Decade 2021 for SDGs がひとつの柱。7 月末にそのアジア地域会議が東京で開催される。IOC は UNESCO の下部組織。申し込み受付中。9 月 8 日の学術フォーラムと関連。

2) 6 月 2 日の公開ワークショップについて

・海洋教育に関するワークショップを東京大学において実施する。同日小委員会を開催する。

・ポスター（資料 6）を作成済み。事務局に依頼し、学術会議玄関に掲示してもらうほか、ホームページにも掲載してもらう。

3) 9月8日の学術フォーラムについて

・2回のワークショップの内容を組み合わせた形で開催する。前半は広い話。後半は海の話
題に絞る。

・Ocean Decade 2021for SDGs との関連を植松先生に話していただく。

・及川先生には ESD の学校での実践に加え、山と海の関連に触れていただく。

・プラスチックも川から海へという問題。

・講演内容についてはどこまで議論を深められるか、講演者・講演順を含め両小委員会が再
度検討し確定する。

・資料5(学術フォーラム確認事項)を5月下旬までに詰める。今後のスケジュールは7/19
内容確定、8/2 事務手続き、8/6 HP 掲載、9/8 フォーラム開催。

4) 第22期提言「持続可能な未来のための教育と人材育成の推進に向けて」およびそれと
関連する活動のレビュー

・第22期の本分科会の提言(資料1)に従って23期以降活動を進めてきた。

・9月の学術フォーラムにおいて提言の到達度を確認する。フォーラム自体が提言の実践の
場として重要である。

・海洋教育は、単に海の基礎を教えるということではなく、海と深い関係をもっている我が
国においては子供の資質・能力を育成するための優れた内容になりえるということ。

・科学地理オリンピックは地域調査を重視し、地理教育そのものを変えようとしている。

5) 本分科会と関わりが深い大型研究計画について)

・委員長より資料2、資料3に基づき大型研究計画「アジアにおける陸域システムと土地利
用の持続可能性向上に向けた総合的研究」提案について説明があり、意見や気のついたこと
があれば寄せて欲しいとの依頼があった。

6) その他

委員長より資料4に基づき当分科会への予算配分について説明があった。

以上